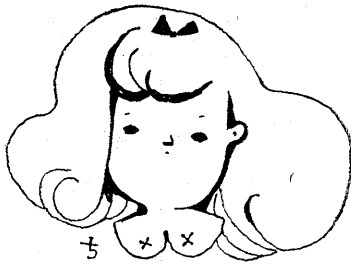


『製作の資材の調査』をしてみても

善方千代子



昭和二十九年十月に開催された東日本地区幼稚園教育研究会の製作班に、東京都公立幼稚園関係から五名の者が参加いたしました。

この作製班には、「幼稚園における製作はどのようにしたらよいか」という研究主題が課されておりました。そして研究問題として「製作の資材と地域社会の関係について」その他、三問題が出されておりましたので、製作について、何か地域的特色を見出したいものと考え、私どもは、東京都公立幼稚園に依頼して、

1、製作の資材についての調査
 2、製作を指導する上で特に苦心する点、または困難に思われる点、その他の調査をいたしました。
 東京都といつても、山手、下町と地域的に大分異りもありますが、公立幼稚園は大体中心地区に集っておりますので、こゝでは地域的に分けずに一括いたしました。
 1、と2、のこの二つの調査について、五十園の解答を集計してみますと、つぎのよう

なものになります。

製作を指導する上で特に苦心する点または困難に思われる点 **第二表**

(東京都公立幼稚園五十園の回答を集計した結果)

- (一) 環境設備の上で
- 1、一人の教師の受持数が多すぎる……………十六園
 - 2、保育室が人数の割合に狭いのでやりにくい……………四園
 - 3、自発活動をさせる為の資材と設備……………三園
 - 4、自然物を利用したくても材料がない……………二園
 - 5、環境上、木工をしなくても音をたてられないのでできない……………一園
- (二) 立案計画の上で
- 1、発達段階に応じた計画のたてかた及び教材の選びかた……………八園
 - 2、強制ではなく、幼児の興味によって製作をさせたいと思うので興味を起させることに重点をおいて計画する……………三園
 - 3、単元と教材とのバランス……………一園

第一表 製作の資材についての調査 (東京都公立幼稚園50園)

資 材	幼 児 が				材 料 と し て			
	よろこぶ	少しよろこぶ	よるこばない	回答なし	多くかう	時々かう	つかわない	回答なし
折紙 (色紙を折りたゝんで形をつくるもの)	23	15	6	6	14	18	16	2
切紙 (色紙などで花形やすきな形を切る)	32	6		12	22	23	2	3
貼紙 (折紙や切紙をのりで台紙にはりつける)	36	10	2	2	20	24	4	2
やぶり紙 (色紙などを指でちぎつて形をつくる)	19	21	8	2	8	36	3	3
つなぎ形 (糸やひご竹に花やむぎわらなどをとおす)	33	5	1	11	2	33	11	4
ぬりえ (形がかいてあるものに彩色する)	25	4	3	18	2	16	27	5
厚紙のしごと (厚手の紙で立体的のものをつくる)	36	12	1	1	25	22	1	2
きびがら	19	5	2	24	2	21	21	6
むぎわら	13	10	3	24	4	25	14	7
ひご竹	18	8	3	21	6	28	7	9
ごむねんど (又はあぶらねんど)	24		1	25	15	7	20	8
どろねんど	42	1		7	30	11	5	4
木工	24	1	2	23	5	13	22	10
針金	12	1	2	35	3	14	24	9
廃物利用								
ボール箱	38	6	1	5	23	25	1	1
タバコの空箱	21	8	1	20	8	22	11	9
キヤラメル空箱	27	8	1	14	8	26	8	8
マッチの空箱	22	8	2	18	6	20	13	11
布	16	10	2	22	6	24	13	7
あきびん	13	5	2	30	7	17	17	9
包装紙	21	10	2	17	9	27	7	7
新聞紙	14	13	4	19	15	22	7	6
口金	10	6	2	32	1	13	26	10
紐	13	11	2	24	12	17	15	6
わごむ	15	7	2	26	3	25	15	7
自然物								
草	23	4	1	22	7	22	12	9
木	20	5	1	24	2	27	10	11
木の実, 葉	33	4		13	9	32	5	4
花	23	2	1	24	8	23	9	10
貝	16	4	1	29	3	17	17	13
砂	25	1	1	23	18	12	9	11
石	17	2	2	29	8	13	16	13
やさい	18	4	2	26	5	22	11	12
くだもの	18	1	1	30	5	20	13	12
その他								
玉子のから	1							
モール						1		
紙テープ						1		
ガラス						1		
経木	1							

4、日常生活に近いものを製作させること

……一園

5、つくったもので遊ばれるようなものをつくらせること

……一園

(三) 指導方法の上で

1、製作をしない幼児または製作の終わった

幼児の処置

……一〇園

2、やりたがらない幼児の指導……一〇園

3、園創造性を生かすこと

……九園

4、個人差と指導方法

……七園

5、あとしまつのさせかた

……三園

6、のりのつけかたの指導

……一園

7、はさみのつかいかたの指導

……一園

8、手伝いをさせる限度

……一園

9、自主的にさせるよう

……一園

この調査の集計から、製作資材に関する数多くの問題点を見いだすことができるのですが、私はつぎにあげる四点について考えてみたいと思います。

一、成長発達段階の理解と製作資材

二、自然に恵まれない地域

三、製作の資材としての折紙

四、受持ち幼児数と製作の問題

一、成長発達段階の理解と製作資材

製作の資材についての調査の結果をみますと、資材として一番多くつかわれているものは「どろねんど」となっており、また、幼児がよろこぶ資材としても一番多いのが「どろねんど」となっております。

私たちが、幼児の製作の指導にあたって、まず第一に考えなければならないことは、それぞれの幼児の成長発達の状態を知ることだと思えます。私たちは、ともすると、計画したものに無理にあてはめようとする為、幼児に適当でない資材を与えているというようなことはないでしょうか。

小さい細工的なものをつくらせたり、その反面、小さいものはいけなないといつてあまり大きすぎるものを与えたり、一斉に指図にしたがって指導どおりにつくらせたり

というようなことはしていないでしょうか、

よく反省してみなければならぬと思えます。

幼児の製作は、楽しんで物をつくりつつある活動過程にこそ意義があり、その間に創意工夫の芽を育てていくことを目標としておりますので、この目標と、幼児の成長発達段階とから考えあわせても、

* 幼児の表現しようとする気持ちを容易に満足させてくれる材料。

* 製作する過程のかんたんなもの
が適した材料であろうと考えられます。

以上の条件を考えると、ねんどは最も適した条件を具えた資材であると思われれます。

数多くある製作資材の中で、一番子どもがよろこび、そして一番多く与えられているという東京都公立幼稚園の実態は、うなずけることだと思えます。

また、第二表をみますと（製作を指導する上で特に苦心する点または困難に思われる点）

* やりたがらない幼児の指導

* 興味を起させることに重点をおいて計画

する。

* 発達段階に応じた教材の選びかたなどの三点が、教師が苦心する点として数多くの幼稚園からあげられています。私たちは、幼児の発達の状態をよく理解し、それに適した資材を十分に研究して、無理のないものを与えるようにしたいと思います。

二、自然に恵まれない地域

第一表をみますと、自然物の資材は、幼児がよろこぶという数が多い割合に、材料としては多くつかわれていないところ、東京という地域の特色が大きく出ていると思えます。

自然物を用いさせたいと思っても、自然の環境に恵まれない地区が多いので、自然物の材料の入手に困難な幼稚園がたくさんございます。いちよりの葉ですら、なかなか満足に手に入らない状態で、はるばると電車に乗り、バスに乗ったりして落葉拾いに出かけなければならぬのです。

さざ舟を水にうかべたり、れんげの花のく

びかさりをつくったり、かやつり草でかやをつつたりした思ひ出は、小さい頃のなつかしい思ひ出として、いつまでも暖かく印象に残っていることを思います。自然の美しさ、ゆたかな夢を包んでいる自然物は、幼児の身近かに、つとめて接しさせてやりたいものにあこがれる資材です。

三、製作の資材としての折紙

学校教育法の幼稚園保育の目標の中の製作の目標には、

「絵画その他の方法により創作的表現の興味を養う」

と明記されており、製作は幼児たちと、創作的表現の興味をひきおこさせることが第一の目標となっております。

ところで、折紙の創作的教育価値については多くの問題を含んでいるものと思われま

す。つまり、幼児の個性を織りこむこともできないし、自分で考え、自分でつくり出すという力は、ここからは養われなぬと思われま

す。

しかし、第一表をみますと、幼児がよろこぶ（二十三件）少しよろこぶ（十五件）という結果が出ているのは、どう解釈したらよいのでしょうか。

昔から、幼稚園といえは折紙というように幼稚園とは切っても切れない縁のように考えられておりました。

研究集会の折にも、折紙の是非についていろいろ討議され、その折の結論といたしましては、

* 子どもの求めないものを画一的に指導するようなことは幼稚園の製作としてはやめた方がよい。

* 子どもの自由遊びの中で楽しく折られる折紙（例えばひこうきのようなもの）はあってもよいと思う。

* 折紙は日本独特の古典芸術の一つとしては貴いもので、保存されてよいものであるが、これを幼児の世界に残す必要はない、ということでした。

四、受持ちの幼児数と製作の問題

個人差のある幼児たちは、強制でなく、自発活動を重んじ、しかも創造性を養うように指導しなければならぬ製作の面には、殊に受持ち幼児数との関係で、いろいろの問題が出てまいります。

第二表にもありますように、

* 一人の教師の受持数が多すぎる

* 保育室が人数の割に狭いのでやりにくい

* 製作をしない幼児、または、製作を終った幼児の処置

など、すべて一人の教師の受持ち幼児数の限度というものを考えさせられる問題であると思ひます。

思ひます。

あれもしたい、これもさせたい、いろいろ

計画しても、幼児数が多すぎる為に

* 指導が徹底しない

* 一斉指導になりがちである

* 個人指導が思うようにならない

* 製作過程や態度を観察するのに困難

* 幼児が落ちついて思う存分しことができない

ない

などの問題や、一方では製作を楽しむ幼児、また一方には、製作以外のそれぞれの遊びをしている幼児がある場合、指導の注意が二分されたり、両方に目が届かない為に事故が起きたりするなど、毎日毎日、切実に悩まされている問題がたくさん出てまいります。

独立の園舎も持たず、まして遊び場も小学校の児童と入り交って遊ばなければならぬし、その上余剰の職員もないという条件の中で、理想的な保育のありかた、その中でも殊に製作の指導の面では、東京都公立幼稚園の教師は、一方ならぬ苦心をしているという状態です。

(東京都中央区立京橋幼稚園)

☆幼児教育界におくる

倉橋惣三先生の二著作

幼稚園眞諦

B 六判一四六頁定価一八〇円

子供讃歌

B 六判二三四頁定価二六〇円

倉橋惣三先生が、永年に亘り考究された幼児保育の眞のあり方を、体験によるうらづけと、先生の美しい心のままに、平明に描かれた書で、幼児教育にたずさわる先生方が、必ず一度はお読みになつて、ほんとうの意味の幼稚園の理解と、倉橋先生のりっぱな児童観を、会得していただきたいと思ひます。

株式会社 フレーベル館